



左から、朝日生命保険相互会社 事務企画部の秋山宏太郎さん、乗本好乃さん、建部寿々さん。

PFUスキャナー
導入事例

金融



朝日生命保険相互会社
事務企画部
業種：金融



スキャナーとAI-OCR/RPAツールの連携で 一般財形「払出請求書」のシステム入力を自動化 年間約300時間が削減されたほか、繁忙時の作業負担も大きく軽減

朝日生命保険相互会社では多様な保険・金融サービスに付随する膨大な事務を効率化するために、RPAを積極的に取り入れて効果を上げています。企業が福利厚生の一環として導入している「一般財形貯蓄」において、払出請求書をfiシリーズでスキャンし、AI-OCRで認識してデータベースに入力するフローを構築したのはその一例です。東京都多摩市の多摩本社を訪ね、RPA導入などを担当する事務企画部 業務効率化推進チームにお話をうかがいました。

- 課題** 月400通が郵送で届き、随時送金処理が必要な「一般財形貯蓄の払出請求書」の請求内容をシステムに手入力するため、担当部署では毎日、午前中に時間を割いて対応していた。
- 解決法** RPAツール導入をきっかけに、AI-OCRとPFUのスキャナー「fi-7800」を連携させて入力作業を自動化する仕組みを構築。
- 効果** 年間約300時間の入力作業が削減され、チェックも楽になった。特に件数の多い日の効果が大きく、他の業務にも余裕を持つて当たれるようになった。

月400通が届く払出請求書をfiシリーズでスキャンし AI-OCRとRPAツールに連携、社内システムに自動で入力

—— 社内のDXを推進する事務企画部 事務設計役の秋山宏太郎さんに、「一般財形貯蓄の払出請求書」をデータベースに入力する作業を、スキャナーとAI-OCR/RPAツールで自動化した事例についてうかがいます。一般財形は他の財形に比べて払出請求が多いのでしょうか。

秋山さん はい、一般財形は財形年金や住宅財形と違い、必要ときにいつでも引き出せるので預金感覚で利用される方もいます。

そのため当社のお客様である企業や団体から、従業員の方々が記入した「払出請求書」が月に400枚ほど届きます。担当部署である企業保険部では、それを毎日、手入力で処理していました。

そこで事務企画部では、払出請求書を「fi-7800」でスキャンしてイメージデータにし、OCRによる文字認識から入力までをRPAが行う仕組みを構築しました。導入後は手入力にかけていた手間と時間がそっくり削減されています。

「fi-7800」(左)で「一般財形貯蓄の払出請求書」(右)をスキャンしAI-OCRと連携させるフローは、事務企画部が手がけたRPA化の一つです。払出請求書は多くの場合に3枚綴りの複写式で、三つ折りにされて封書で届きます。



システム入力から支払回答票の出力までを自動化、人は最終確認だけ

—— 払出請求書をスキャンしてRPAに連携する流れを教えてください。

秋山さん 払出請求書が届くと「fi-7800」でスキャンしてPDF化します。するとRPAが実行され、以降の作業がすべて自動でシームレスに行われます。具体的には、①AI-OCRによるPDFの文字認識、②CSVファイルへの出力、③社内システムで処理するためのExcelへの展開、④社内システムへの入力、の順で作業が進みます。

—— OCRの認識結果を確認する工程は設けていますか。

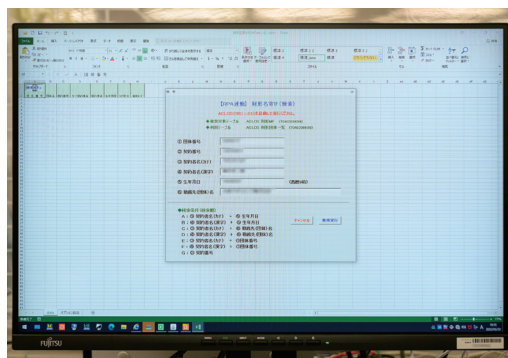
秋山さん 途中で確認することはせず、シームレスで一気に入力ま

で行い、入力後に紙で出力される「RPA読み取り結果判定シート」と、全項目が入った「財形支払試算回答票」という2種類の帳票を払出請求書の原本と突き合わせ、人の目でチェックしています。

人の目によるチェックが欠かせない理由は、OCR認識ミスの発見もさることながら、たとえば請求金額が払出可能金額を超えている場合や、事前登録と異なる金融機関を送金先に指定した請求書などがあるためです。そうした不備が見つかった場合、お客様に確認を行い、請求内容を修正します。また、OCR認識そのものがうまくいっていない請求書があれば、それだけスキャンからやり直します。



「fi-7800」は毎分110枚・220面の高速スキャンが可能です。また地紋除去などOCRに最適な画像を生成するための機能を備えています。



払出請求書をスキャンしたあとは、RPAが自動でイメージデータのOCR認識とシステムへの入力作業を行います。その間、人の手による作業は必要ありません。



自動入力後に出力される「RPA読み取り結果判定シート」「財形支払試算回答票」と、請求書原本を突き合わせて確認します。

スキャナーとAI-OCR/RPAツールの活用により計14業務の効率化を実現

—— RPA化による削減効果を、もし数字で表すことができれば教えてください。また、現場の企業保険部から効率化についての感想が届いていれば、併せてお聞かせください。

秋山さん 試算では年間300時間の削減効果があったと見積もっています。一日7時間働くとした場合の40日強が削減されたという感覚で、おおよそ見込んだ通りの結果です。もともと専任がいたわけではなく、7名の社員が持ち回りで午前中の30分なり1時間なりを使って入力していましたので、その時間が削減されれば当然、時間外労働が減る、余裕を持って他の業務をこなせるようになるといった好循環が生まれます。

現場からは、それまで人の目でダブルチェックしていたところを、第1段階のチェックをRPAに任せられるようになって楽になったという声が届いています。請求件数が多ければ多いほど効果が上がるので、たとえばゴールデンウィーク明けなど、30通から40通を午前中に処理しなければならないときは、1時間単位の時短効果を実感できるそうです。

—— 「fi-7800」に対する評価をお聞かせください。

秋山さん 処理が速くて画像がきれいです。画像がきれいであればOCRの認識精度も上がりますから、導入するメリットは大きいと思います。A4・A5・B4とサイズがまちまちな払出請求書を重ねて

一気にスキャンできるのもよいですね。またカーボン複写式の薄い請求書でも紙詰まりがほとんど発生しないので、非常に助かっています。

—— ほかにもスキャナーとAI-OCR/RPAツールの連携によって効率化を実現した例があれば教えてください。

秋山さん これまで14の案件を開発しており、『お客様の声アンケート』帳票読込」という業務では、紙のアンケートを自動で読み取り集計することで年間667時間の時短を実現しています。また、契約件数が企業保険より多い個人保険の分野でも、給付金請求処理のRPAを開発中です。導入後は1,000時間以上の削減が可能だと思います。



開発中(2022年5月の取材時)のRPAの一つ、個人保険の給付金請求処理にはA4高速スキャナー「fi-7180」を活用する予定です。

